

音楽初学者のための音楽理論学習と演習

音楽教育講座 井上 洋一

1 授業の目的と到達目標

本授業は、保育に必要とされる音楽的な表現技術を習得することを目的としている。保育の場において、音楽指導は必須であり、初等教育コース（幼年教育サブコース）の選択必修、保育士養成コースの必修科目と位置づけられている。

到達目標は、以下の4点である。

- 1) 基礎的な音楽理論を習得し、自らの演奏技術の向上に役立たせることができる。
- 2) ピアノ演奏や簡単な楽曲の弾き歌いができる。
- 3) 音楽的な感受性や自分の身体、身の回りの音具を用いながら、グループによる音楽の創作ができる。
- 4) 幼児の発達を踏まえ、実際の保育の場で活用できる音楽活動の技術を高めることができる。

2 授業の概要

授業の概要は、以下の4点である。

- 基礎的な音楽理論、ソルフェージュ
- ピアノレッスン
(2回生で履修する初等音楽と関連づけて)
- 弾き歌いを含む歌唱
- グループでの合奏・合唱

3 専任教員による分担とスケジュール

本授業は、平成28年度まで、保育士コースをもつ他大学からの非常勤講師が担当していたが、平成29年度から、音楽教育講座の専任教員が担当することとなった。授業の概要と各教員の専門領域を照らして、オムニバス形式で授業を進めた。

パートⅠ 音楽理論とアンサンブル

担当：井上（音楽理論・作曲）

- 第1回 ガイダンス、音楽理論基礎①（音程・音階）
- 第2回 音楽理論基礎②（リズム・和音）
- 第3回 音楽理論基礎③（調・拍子・ソルフェージュ）
- 第4回 指揮法の基礎とアンサンブル
- 第5回 即興表現と音あそび、まとめのテスト

パートⅡ ピアノ演奏の技術と伴奏付け

担当：福富（ピアノ）

- 第6回 ピアノの基本的奏法の学習
- 第7回 ピアノ①（音階）
- 第8回 ピアノ②（和音）
- 第9回 ピアノ③（伴奏付け）
- 第10回 まとめテスト、実技試験

パートⅢ 歌唱の基礎と弾き歌い

担当：木村（声楽）

- 第11回 子どもの歌と発声
- 第12回 わらべうた・手遊び歌
- 第13回 詩と子どもの歌
- 第14回 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」
- 第15回 行事の歌・まとめテスト

4 履修者の音楽経験と音楽初学者の抽出

本授業は、音楽科教員を目指す学生を対象にした音楽専門科目ではなく、履修者の音楽経験によって実技的な能力に大きな差があることが予想された。

2018年度 音楽の表現技術 受講票

受講日	4月13日 金曜日
学生番号	
氏名	
事前調査（あてはまるところを○で囲み、必要に応じて具体的に記述して下さい）	
1 楽譜（五線）の読み書きは得意ですか？	できる / まあまあできる / あまりできない
2 和声やソルフェージュ等を学習したことはありますか？	ある（いつ頃、どこで） / ない
3 楽器経験はありますか？（習い事、音楽部サークル活動等の経験）	ある（具体的内容） / ない
4 どんな音楽が好きですか？（ジャンル・作曲家・曲名等）	（中国やアジアの民族系、ソカレゲエ、EDM系など）
5 現段階で取得希望の教員免許を書いて下さい。	ある（種類・教科幼稚園教諭、保育士） / ない
6 現在、将来教職に就きたいと考えていますか？	考えている（校種・教科幼稚園教諭） / 考えていない（他の職種） / 未定
ミニレポート（感想・質問等）	
手拍子でリズムがリズム読みのほうが音符の長さが分からなくなるとしてとても難しかった。リズムはいいので、これから頑張りたいと思います。	

図1 第1回 受講票

筆者は、初回の授業で履修者の音楽経験を調査し、卒業後の進路や音楽初学者の抽出を行った。(図1)

履修者の多くは、幼稚園教諭や保育士を目指しており、ピアノを習ったことがある学生は、16名中13名いた。また、読譜が苦手と答えた学生が3名おり、そのうちの1名は、楽器経験もなく、授この授業に不安を感じていた。

5 幼児教育は環境を通して行う教育

前項の音楽初学者の不安を解消し、楽しみながら音楽の表現技術を身につけさせるためにはどうすればよいか。そのヒントを探るために新しい「幼稚園教育要領」を読み直した。幼児教育においても、育みたい資質・能力の三本の柱は、小・中・高等学校の「学習指導要領」と一致しており、一貫性・整合性がより強調されている。さらに、特筆すべきことは、幼児教育は「環境を通して行う教育」と言われている点である。三本の柱は、「遊び」の環境の中で、総合的に育成するとされている。

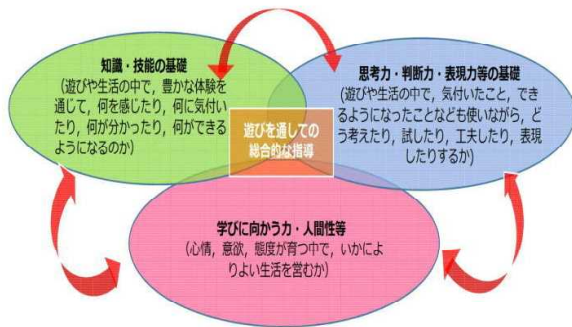


図2 幼稚園教育要領のポイント

ちなみに「遊び」を英訳すると「play」であり、音楽を「演奏する」「奏でる」という動詞も「play」である。このことから、音楽教育は、幼児教育に「遊び」の環境づくりに決して欠かせないものと考えられる。

6 playすることを通して学ぶ授業



図3 授業設計における重点

幼児教育の重要な点は4つにまとめることがで

きる。これを参考にして、「幼児」を「学生」、「遊ぶ」を「奏でる」に置き換え、本授業で重視したい内容を考え、授業プランを立案した。(図3)

7 「授業」と「生活」を結ぶ工夫

筆者が担当した全5回では、学生の反応をみながら、毎回、自作の印刷資料を配付した。(図4)

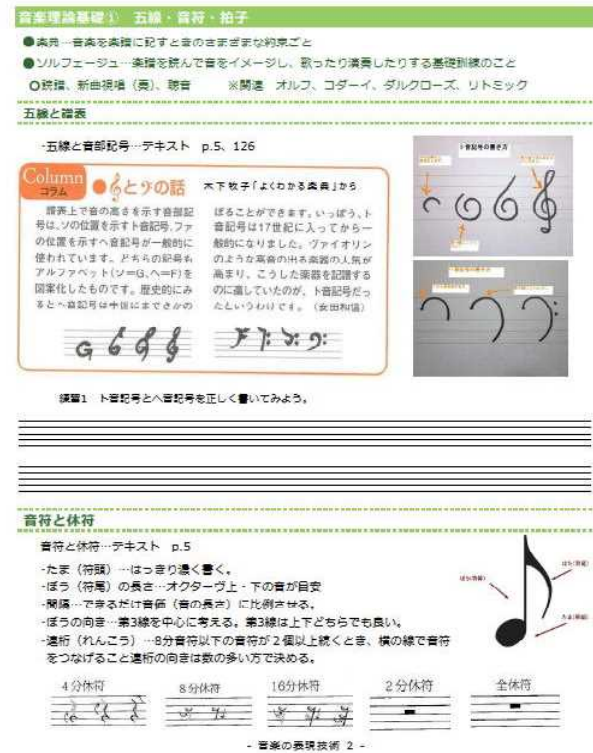


図4 自作印刷テキスト

また、この印刷資料と連携した「Moodle」のコンテンツを作成し、教材の提示や自宅での復習ができるようにした。たとえば、聴音の回では、洗足学園音楽大学がWeb上で公開しているオンライン聴音、スマホの調音練習用アプリを紹介したり、指揮法の回では、YouTube上の指揮者の動画を視聴させたりした。また、タブレットPCや身近な楽器を使ったアンサンブルを行った回では、模範演奏を聴いたり、自分たちの演奏を録画して振り返らせたりした。(図5)

これらの工夫により、履修者は、授業や生活の



図5 振り返りのための録画

